

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173000035		
法人名	社会福祉法人 富良野あさひ郷		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 グループホーム 北の峯		
所在地	北海道富良野市中御料地2067の3		
自己評価作成日	平成22年8月19日	評価結果市町村受理日	平成22年11月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ケアの質。サービスの質の向上を目指して、毎月内部研修、認知症ケア研修、避難訓練を行っている。

・昨年度より行っている、本人の希望や家族の要望を取り入れた誕生日外出は入居者、家族に大変喜んで頂いているので 今後も続けたいです。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0173000035&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成22年10月18日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、障害者、老人施設を運営する社会福祉法人が平成13年11月に開設し、地域高齢者の福祉充実に積極的に取り組んでいる。事業所としての役割や機能を啓発しながら、地域に開かれた存在を目指した運営を行っている。職員を担当制とし、より利用者の気持ちや能力を活かした役割を担う場面づくりを行っている。また、本人の生き方を尊重し、認知症の緩和や利用者同士の和やかな雰囲気大切にしながら、日々のケアサービスに努めている。職員の離職者が少なく、職員同士のチームワークも良好である。利用者、家族との信頼関係を構築し、「その人らしく」安心できる地域での暮らしを提供している。施設長は、利用者サービスについて、より良いものになるよう職員と共に検討を重ねている。また、毎月の内部研修では、様々な内容のテーマ研修を行い、より良い運営やケアにつなげられるよう職員間で学びや研鑽を積む機会を確保している。誕生日の外出、衛生管理の徹底についても力を入れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年度の外部評価で指摘を受けた地域密着型サービスの意義を踏まえて理念の見直しを行っている。理念はホーム内に掲示しており理念に基づいたケアサービスができる様、日々取り組んでいる。	地域密着型サービスとして何が大切かを考え、利用者や地域のニーズ、現状に合った理念に作り変えていくことの必要性を感じている。また、管理者や職員は理念を共有し、利用者への接し方、言葉がけ、記録等を振り返り、ケアに反映している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	個人外出やホームの行事でお祭りやイベント、市内のGHの行事に参加したりと地元の人々と交流を図っている。	地域的に交流の難しい環境下にあるが、全職員は市内のグループホーム、運営推進委員との関係づくりを進め、事業所の行事の中で相互交流を深めている。また、地元の人々と外食時やヘソ祭りで交流を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の持っている情報(認知症についてなど)を地域の老人クラブの方々などに教えたいと老人クラブの会長さんにお話しお願いしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回運営推進会議を実施している。入居者状況や行事等の報告をしている。その際、役員の方々より様々な情報、ご意見を頂き、それをサービス向上に活かしている。また、ホームの行事にも参加して頂いている。また、本年度より推進委員を7名より3名増やした10名となり会議の趣旨を委員を通じて広げようとしている。	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催している。会議では、パワーポイントを使用し、事業所の取り組み内容や具体的な課題を話し合っている。また、利用者の生活の質を向上させるため、委員3名を増員し、運営推進会議を通してのつながりをもつなど、多方面との連携を大切にしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センター主催のケア会議に毎月参加し、情報収集を行い、また、事業所の実情などを伝えながら市の担当者などとの交流を深めている	市の担当者、地域包括支援センターとは運営推進会議や毎月のケア会議等で情報交換や連携を図っている。また、市の担当者とは事業所のサービス提供について積極的に相談し、助言や指導を仰ぎながら、協働の関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について内部研修を行い職員全員が正しく理解している。また、毎月の職員会議の議題にも毎回あげて身体拘束しないケアに取り組んでいる。玄関は日中施錠はしていないが居間より玄関へ出る扉にセンサーを設置し、職員が出入りする際には、他の職員へ声掛けしてから行く様、取り決めをしている。	利用契約書に身体拘束の禁止を明記し、利用開始時に家族にも説明している。毎月の職員会議で研鑽を深め、内部研修等により高齢者虐待防止関連法について学び、管理者はじめ職員全体が十分理解し、身体拘束をしないケアに努めている。日中は鍵をかけず、居間より玄関へ出る扉にセンサーを設置するとともに、職員による見守りを徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修、認知症ケア研修にて虐待について学ぶ機会を持っている。身体面ばかりでなく、精神面での虐待についても防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修の中で学ぶ機会を作り、今後活用する人が出た場合に向けて支援体制は整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の面接時、利用者さんやご家族の方より契約に関する不安や疑問点をたずね十分な説明を行い理解して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を設けている。職員は日常の入居者の行動や表情からひとりひとりの思いを把握出来る様努めている。また、ご家族には面会時の時などに話を聞き、それを運営に反映させている。また、ケアプラン送付時にアンケート用紙も入れ、意見や苦情を自由に記載して頂けるようにしている。	毎月の行事で家族と交流を図り、意見や要望を話しやすい雰囲気づくりに心がけている。家族の来訪時には積極的に話し合いを持ち、家族の思いを汲み取るなど意向を尊重し、希望に沿うよう努めている。さらに、ケアプランを家族に送付する際に、アンケート用紙を同封し、それらを運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の職員対話の時間を設けている。また、それ以外でも、職員会議の時などに意見や提案を聞きそれを運営に反映させている。	管理者は働きやすい職場環境を構築するため、意見交換や議論を重要視しており、職員からの意見や提案を吸い上げ、日々のケアに取り入れている。また、本年度より、施設長との対話の時間を年2回程設け、全体をまとめ運営に反映する取り組みも行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に入居者や職員と会話し働きやすい職場環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を多く作ってくれている。経験年数に対して外部研修への参加、また、同法人施設での外部研修にも参加させて頂いている。年間行事に基づいた内部研修もそれぞれ職員が担当し行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のGHの行事や研修に参加させてもらったり、また、当GHの行事にも参加して頂いたりと交流する機会がある。また、新しく市内のGHが集まり情報交換などを行う機会もでき今後は勉強会などもできる様取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面接の時より本人に会い困っている事、不安な事などを聞いている。また、入居後間もなくは特に気にして聞く機会を作り、受け止める努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話での問い合わせ時、入居申し込みに来た時、入居前の面接時などに困っている事、不安な事などを聞き、ご家族の思いを受け止め、入居後の信頼関係に反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態や状況を考慮し、また、本人や家族と相談しながら必要としている支援を見極め、判断し、当GH以外のサービスの紹介や情報を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者と日々の暮らしの中で、本人の喜びや悲しみなどの思いを共感し、理解しながら信頼関係を作り上げてはいる。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話にて、ご家族とは連絡を取り合い、本人の思いを伝えたり、日頃の様子を伝えている。また、外出や行事の時に、お手伝いをお願いしたりして一緒に支えていく関係を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人が気軽に来訪できる様努めている。また、昔行っていた飲食店へ行ったりとなじみの人や場所との関係が途切れない様支援している。	友人、知人の来訪時には、ゆったりと過ごせるような雰囲気づくりに努めている。以前の居住地で親しくしていた知人との会話や昔よく行った飲食店での食事を楽しんでもらうなど、馴染みの人や場所との関係を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士なじみの関係が出来ており、お互い助け合っている場面もあるが、それよってのトラブル(お金を貸す、物をあげる、歩けない人を立たせて連れて行こうとする等、転倒へ繋がる行為)もあるため常に見守りし、職員が間に入りフォローしながら関係が保てる様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も本人や家族の状況を知って相談などの関わりを持っている。また、退居後も入院している病院へお見舞いへ行ったり。施設の方へ面会に行ったりもしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	当ホームの理念にある「その人らしく」を念頭に置き、特に担当職員は本人との関わりを大切に、表情や行動など言葉では上手く伝える事ができない思いをくみ取る様努力している。	職員を担当制にし、あらゆる場面において、利用者がどのように暮らし、何をしたいのか汲み取るよう支援している。また、利用者の発した言葉、表情などから希望や意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時に情報の把握に努めている。その後も本人や面会の人より様々な新しい情報が出てくるのでお話を伺い把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事、排泄、睡眠、バイタル等のチェック表やケース記録等を活用し、本人の少しの変化も見逃さず、その日その日の現状を総合的に把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成前に、何気にも本人にニーズを聞いた、家族の要望を確認し意見を反映させている。また、職員の意見や気付きも含め、計画作成担当者が中心となりケアプラン会議を設けて介護計画を作成している。	理念にある「その人らしく、いきいきと・・・」の生活を送るための利用者の要望や家族の意見を職員間で共有している。利用者と家族の思いや希望を少しでも多く叶え、その人らしく暮らせるよう、利用者に沿った介護計画の見直しに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録用紙の見直しをして、新しく作り使用しているが、まだ、記録を記入することだけでいっぱいのため、実際ケアプランに必要な情報が得られず、見直しに活かされていないこともある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日課を変更して散歩に行ったり、桜を見にドライブに行ったり、個別で本人の希望を叶えた誕生日外出を実施している。また、ご家族より要望があれば通院時などの際の送迎もしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベント(平和祭やへそ祭り)に参加したり、誕生日外出で地域のなじみの店へ行ったりと地域資源を利用しながら暮らしを楽しめる様支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人、家族への希望を聞き、入居前からのかかりつけ医を希望された場合は継続して通院出来る様に支援している。受診時病院側が状態を把握出来る様、情報を提供している。また、当GHの協力医への通院を希望された場合は毎月職員が通院の対応をしている。	協力医療機関以外は、家族対応を基本としている。利用開始前のかかりつけ医を希望する場合は、病院側へ都度適格な情報の提供を行っている。協力病院への通院対応は家族の要望に応じている。その際同行した職員より必要に応じて受診結果の報告を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当GHに看護師は確保していない、しかし、協力医である北の峰病院の看護師や併設の特養の看護師に様々な情報や気づきを相談させて頂きながら適切な受診や看護を受けられるよう支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院へお見舞いに行ったりして、入居者の方が安心出来る様努めている。また、病院関係者との情報交換等は個別情報の点もあり、家族を介して行われる事が多い。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に対する対応について説明を行い、本人の気持ちや状態、家族の意向を聞き、かかりつけ医とも十分に話し合いをしながら今後の方針について話し合っている。当GHで現在まで終末期をここで迎えたというケースはないが、今後終末期へ向けてケアをする場合は環境等様々な事を整える必要がある。	重度化や終末期のあり方については、事業所ができるケアについて家族等へ契約時に十分説明している。状況に応じて家族の意見を確認しながら、段階的に全体で話し合い、支援していく体制を整えている。また、これらの支援に向けての職員研修も行っている。	重度化した場合や終末期に対する対応指針及び意思確認書の作成、同意が得られる体制を期待したい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っていないが、急変や事故発生に備えたマニュアルを作成しており、内部研修の中で勉強はしている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月避難訓練を行っており、すべての職員が災害時対応ができる事を目標に訓練をしている。また、その際は併設の特養の職員に参加して頂いたり、年間行事の2回の大きい避難訓練の際は、ホットラインを使用して行い、また、7月に実施した際には消防の方にも来て頂き、指導等をして頂いている。	非常災害計画に従い、年2回の訓練を行っている。また、事業所では利用者の安全と避難誘導が実際の災害時にも行えるよう、一人体制を想定した訓練を毎月実施している。同一法人の他施設とは、非常災害時における連携体制を構築している		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の尊厳を大切にしながら、その人に合わせた言葉掛け(伝わりやすい言葉を使う、特に排泄面に関しては羞恥心に配慮した言葉掛けをしている)をしている。	独自の生活歴を有する個人として尊重し、尊厳を維持することをケアの基本としており、声かけや排泄時の対応等に誇りやプライバシーを損ねることのないよう職員一丸となって取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの分かる力に合わせた言葉掛けなどをし、外食の際などは自分でメニューを選んだり、着る服を選んだりと本人が納得出来る様に対応している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が1名対応の時は希望に沿うことができない時もあるが職員の数がある時には日課を変えて本人の希望に沿って(散歩、買い物、ドライブなど)支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容に関しては現在なじみの店へ行っている人はいないが、開設当時よりお願いしている市内のヘアサロンの人が来て本人の希望に合わせたカットやパーマをして頂いている。入居者の方とも顔なじみになり、入居者の方も来てくれることを大変喜んでいる。また、お化粧をしている人もおり、必要物品を切らさないようにご家族や担当職員の方で準備している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けなどできる方々は職員と一緒にやっている。献立も入居者の希望を取り入れ、個々に合わせた食べやすい形態にして提供している。お茶碗などは自宅で使用していたなじみの物を使い家庭的な雰囲気楽しんで食事ができる様支援している。	準備や盛り付け、後片付けを職員と一緒にやっている。季節感を大事にしながらの行事食を取り入れ、食事が楽しみなものになる支援をしている。リハビリを兼ね利用者全員が箸を使用しており、職員と一緒に和やかに食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に食事、水分量のチェック表をつけている。個々の状態に合わせた物を提供。また、担当医より量や塩分について指示がある人に関しては個別に調節して対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがい、歯磨きの声掛けをしてやって頂いている。自分でできない人は職員が介助で行っている。個々に合わせた道具を使い、清潔保持に努めている。また、週1回義歯のポリドント洗浄を実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により、個々の排泄パターンを把握している。それによりトイレ誘導を行い、失敗を減らす様努めている。また、おむつ使用者も気持ちよく排泄出来る様可能な方はトイレへ行き、排泄して頂いている。	可能な限り自立して排泄できるよう、記録から排泄状況を把握し、声かけ誘導を行っている。声のトーンや周囲の状況に注意し、プライドを傷つけないよう努めている。また、職員手づくりの野菜ジュースの提供や体操、散歩なども支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に食物繊維の多い物を取り入れたり、週3回午前のおやつの際にもヨーグルトや野菜(食物繊維のある)を入れたジュースを作り提供している。また、体操や散歩、掃除などで体を動かしたり、腹部マッサージをしたりしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は決まっているがその中でできるだけ本人の希望に沿うようにしている。また、重度化に伴い職員2名での介助を行い、安全面にも配慮し安心して入浴が楽しめる様支援している。入浴が好きでない人にはタイミングを見計らって声掛けをするなど対応を考えやっている。	一人ひとりの生活習慣やその時々希望を大切に、時間対応や順番など、事業所としてできる限りの範囲で入浴がゆったりと楽しめるような支援をしている。また、車椅子利用者には、安心、安全に入浴できるような工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習慣やその日の状態により休息(お昼寝)をして頂いたり、就寝介助を行っている。また、自宅より持参されたなじみの寝具を使用している人もおり気持ちよく安心して休める様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服薬マニュアルがあり、個々に飲んでる薬や副作用について記載しており、いつでも確認できるようになっている。また、薬の変更があれば、その都度マニュアルも新しい物に変更し症状の変化についても良く確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔していた仕事や生活歴を活かし役割が持てるようにしている(食堂をしていた人は台所仕事、お習字の先生には、行事の時に文字を書いてもらうなど)。役割があることで安心や自信にもつながり落ち着いた生活につながっている。また、楽しみや気晴らしで散歩や買い物、外食へ行ったりもしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩に行ったり、職員と買い物に行ったりしている。誕生日には本人が希望される場所(自宅や買い物、なじみの店での食事など)へ出かける機会を作っている。また、季節に合わせて花見、果物狩り、地域のお祭りなどの行事も計画して行っている。誕生日外出でハイランドふらのを利用する際には、施設の方へ入居者の状況を話し、協力してもらい外出することが可能になっている。	心身の活性化や体力維持につながるよう、散歩や買い物等、一人ひとりの希望を大切に個別外出支援を基本としている。また、全体の行事的外出として、秋には紅葉ドライブ、春には花見、夏にはサクランボ狩りなど年間行事を計画化している。より個別性の高い外出には、家族の協力を得るなどして積極的に支援している。誕生日の外出では、地域の施設のサポートや住民との関係性を育む内容の支援も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで安心できるという人もおり、少額だが手持ちしている人もいる。しかし、十分に管理できない人もいるので担当職員の方で定期的に金額の確認をしている。また、そのお金で外出時買い物や食事をして自分で支払いをしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人の希望時はもちろん電話したり手紙を書いたり、毎年年賀状を書いている人もいる。自分でできない人は職員が手紙を代筆したりしている。遠くに住んでいる人へは写真を同封して送ったりして、いつまでも大切な人とつながりが持てる様になっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量に気をつけたり、日差しが強い時にはブラインドを下げて調節している。また、庭で咲いた花を居間に飾って季節を感じたり、その時期に合わせたちぎり絵(皆で作ったもの)を飾ったりして、心地よく過ごせるようにしている。	広めのガラス窓を施し、自然な採光を取り入れたリビングには、テーブルやソファを利用者がくつろげるように配慮した配置にしている。そこから眺める庭には花壇や野菜畑があり、家庭的な生活を営むことができる。また、利用者が作成した、ちぎり絵などの装飾品により、季節感を感じられるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや食卓とそれぞれ個々の居場所ができており、自分の居心地の良い場所できつろいでいる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居する時に、本人のなじみの物を持ってきて頂ける様お願いしている。寝具やタンス、家族の写真などを持ち込んでいる人もおり、心地よく安心して過ごせるように工夫している。	居室内の家具や調度品は、使い慣れた物を本人や家族と相談しながら配置している。家族の写真や手づくり品など思い思いに飾りつけている。また、車椅子使用者も快適で安全に暮らせるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関や浴室などに手すりを設置、手すりのつかない所はテーブルやソファを手すり代わりにできる様設置。また、認知症の進行により、今までできた事が段々できなくなっているが、声掛け、見守り、一部介助により、まだまだできる事もあるので、個々に合わせた対応をして混乱なく過ごせるよう対応している。		